



広島西ロータリークラブ会報

THE ROTARY CLUB OF HIROSHIMA WEST

No.
2026

例会日・木曜日 12:30~13:30
例会場・ANAクラウンプラザホテル広島
会 長 田中 健志
幹 事 金本 善行

事務所・〒730-0011 広島市中区基町6-78
リーガロイヤルホテル広島13F
TEL 082-221-4894・FAX 082-221-4870
E-mail:hwrc@godorc.gr.jp
広島西ロータリー http://www.hwrc.jp/

RIテーマ Building Communities Bridging Continents

「地域を育み、大陸をつなぐ」

本年度会長テーマ

「ロータリーを楽しもう」

「ロータリー雑誌月間」

2011年4月28日 第2002回例会

◆ 会長時間 ◆

田中会長



4月は「ロータリー雑誌月間」です。雑誌月間の生い立ち・対内外への広報誌としての役割について、ガバナー月信4月号で、前田ガバナーが寄稿されています。更に、諏訪PGは「『ロータリーの友』精読は真のロータリアンへの道」と題され、格調高い内容の寄稿をされています。

どの様な団体や会社でも、対内的な広報としての印刷物を配布します。弊社も毎月社内報を給料袋に入れますし、また社内メール配信で社内報が見れるようにしています。しかし、彼らの大半の興味は人事や給与関係のみで、社長として読んで欲しい「社の方針」等には興味を示さないようです。なんとか彼らに読まそうとして、白黒をカラーコピーに変え写真を多くしましたが、やはり読んでくれないようです。

諏訪PGが言われるように、真のロータリアンになる為に「ロータリーの友」「ガバナー月信」「当クラブの会報」を精読して下さるよう希望して会長時間を終ります。

● 会務報告

金本幹事

※次週5月5日は祝日のため、例会はございません。

※ロータリーレートが5月1日より82円（現行80円）に変更になります。

● 委員会報告

出席報告 羽井委員

本 日 (4月28日・木曜日)
会員数 83名 出席者 66名
欠席者 17名 ご来客 1名
ご来賓 1名 ゲスト 0名
計 68名
前々回(4月14日・木曜日)
出席率 100%



※ 次年度幹事

例会終了後、4階「カメラア」において次年度第2回クラブ協議会を開催致しますので、理事役員及び委員長は出席をお願いします。

※ 姉妹クラブ友好委員会 上野委員長

台南R Cからの交換留学生3人を7月下旬を目途に受け入れを進めて参ります。

受け入れの為のサポートを宜しくお願いします。

※ 新世代・インターアクト委員会 中岡委員長

鈴ヶ峯教育講演会開催のお知らせ

日 時 5月21日(土) 10:40~

講演者 河村 晴美さん

(元広島県立大学教授)

テーマ “女性のキャリア”

多くのご参加をお願い致します。

●スマイルボックス SAA 篁委員

😊 浜田広君（自主申告）大枚

去る23日、愚息・茂が当クラブの森脇宗彦君の住吉神社で結婚式を挙げさせていただきました。立派な式を挙げていただき、感謝しております。

😊 森脇宗彦君

浜田君のご子息の縁結びを立派に務められました森脇君もご出宝をお願いします。

😊 上田欣一君（ダブル）

4月24日、芸南カントリークラブでのシニア選手権で見事優勝されました。予選はグロス78、本選は80でした。お目出とうございます。スマイルボックスへどうぞ。

😊 香川基吉君（4月28日、中国新聞）

福屋広島駅前店は29日から屋上ビアガーデンをオープンされます。中国料理やイタリア料理まで幅広いメニューを用意され、男性2,900円、女性2,600円で午後5時から10時まで営業とのこと。9月11日まで。どうぞご利用下さい。

■卓 話



「マツダの環境技術への取組み」

マツダ株式会社
商品戦略本部 技術企画部
部長 富山 道雄氏

マツダは、今年で創立90周年を迎えました。お客様を始め、地域社会やお取引先様からのご支援があつてのことです。本日は、先人達の「樺」を引き継いだ私達が取組んでいる環境技術の内容や考え方をご紹介します。

サステナブルZoom-Zoom宣言

世界の自動車保有台数が増加する中で、自動車メーカーは、これまでも増して、排出ガスのクリーン化や、CO₂の削減、すなわち燃費の改善に取組まねばなりません。マツダは、技術開発の長期ビジョンである「サステナブル“Zoom-Zoom”宣言」に基づき持続可能な未来の実現に向け、取組んでいます。

マツダブランドの基本はZoom-Zoom、すなわち『走る歓び』であり、「意のままに操れるFun to Drive」です。Zoom-Zoomと『優れた環境安全性能』を、限られた市場のお客様のみではなく、世界中のお客様に提供することが、マツダの

ブランド価値であり、コミットメントです。これを実現するためには、全てのマツダ車に採用できる技術を、『お求め安い価格』で提供できることが必要です。

2015年までにマツダ車の燃費を30%向上

マツダは、2020年時点でも、グローバルな自動車の主要エネルギーは石油資源で、動力系は内燃機関が主流と予測します。CO₂の「総」排出量削減のための、最優先・最重要課題は、内燃機関の劇的な改良を軸としたベース技術の大幅な進化と考えます。地球環境のためには、多くの車種に活用でき、将来的にも展開性のある技術が有効と考えます。

この展望から、2015年までにグローバルで販売するマツダ車の平均燃費を2008年比で30%向上させることを表明しました。車の基本性能となるエンジンや変速機の効率改善や車両の軽量化、空力特性などの「ベース技術」を原点に戻って徹底的に改善します。

既に2001年から2008年の7年間で、国内で販売したマツダ車の平均燃費を約30%向上させました。今年、販売した登録車の約9割が国内のエコカー減税対象となっています。

マツダ スカイ コンセプト

マツダスカイコンセプトは、2011年から導入する次世代パワートレインのコンセプトで、3つの思いをSKYという言葉に込めています。

- 限界に捕われず、のびのびと自由な発想で究極の効率を追求するエンジニアの高い志
- 『未来に続く青空』を守りたい
- その青空のもとで、意のままに『走る歓び』をすべてのお客様さまに提供したい

このコンセプトに基づいて、技術革新による『ブレークスルー』を進めています。

ベース技術での到達レベル

30%燃費改善を現在の車と比較して説明します。例えば、ガソリンエンジン車であれば、1クラス下の環境性能を発揮します。ディーゼルエンジン車であれば、2クラス下のガソリン車の環境性能を発揮します。ディーゼルエンジンをアテンザクラス（CD-car）に搭載した将来商品は、現行のガソリン軽自動車やデミオクラス（B-car）の燃費に到達します。

加えて、Zoom-Zoomを体現すべく、相反する要件だった燃費と運動性能向上を、技術革新の積み重ねにより、同時に実現します。

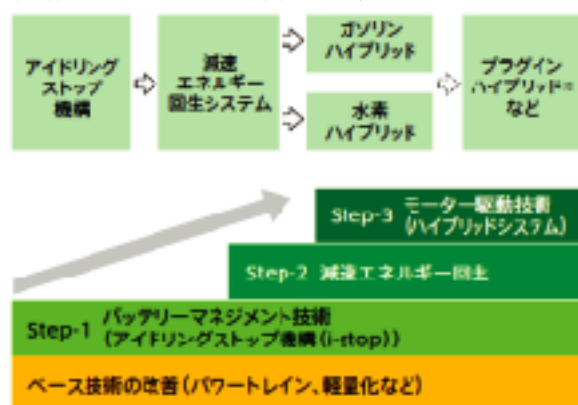
さらに、マツダは、軽量化が、運動性能向上だけでなく、燃費向上の重要な要素と考えます。これまで、車は、衝突安全性能や装備水準アップにより、モデルチェンジ毎に重くなっていました。2011年以降のモデルは、現在より100kg以上軽量化、2016年以降はさらに100kg以上の軽量化を目指します。

ビルディングブロック戦略

電気デバイスは、環境性能に優れている一方で、現在の技術レベルでは、これら技術は複雑で高コストです。すなわち、全てのお客様にお届けすることが難しい。しかし、電気デバイスも、時間と共に次第に普及して、コストは下がっていくと見込まれます。将来的に、スカイコンセプトに基づく「ベース技術」の上に段階的に電気デバイス技術を組合せて優れた環境安全性能を実現します。

マツダは、I-stopに始まり、減速エネルギー回生、ハイブリッドなどへの段階的な導入を図る「ビルディングブロック戦略」を持っています。電気デバイスにおいても、シンプルな技術から順に導入していくことが基本です。

■ 電気デバイス技術の段階的実用化(ビルディングブロック戦略)
革新的な環境性能を持つベースエンジンに、段階的に電気デバイス技術を組み合わせることで、さらなる環境性能の向上を図ります。



※家庭用電源で電池を充電できるハイブリッド車

Step-1 アイドリングストップ機構 (i-stop)

一時停止時に自動でエンジン停止して燃費向上させるシステムで、約7～10%の燃費向上が可能です。マツダは「i-stop」を電気デバイスの第一弾として2009年発売のアクセラから導入開始し、搭載車を拡大しています。

Step-2 減速エネルギー回生システム

クルマの減速時に発生するエネルギーを電気として回収し、クルマが必要とする電気エネルギーとして再利用する回生技術です。約5%の燃費向上効果が見込まれます。

Step-3 モーター駆動技術 (ハイブリッド)

エンジンの効率が悪い低回転・低負荷時に、モーターで走行アシストするシステムです。

2010年3月、ハイブリッド技術ライセンスの取得について、トヨタ自動車㈱と合意しました。マツダは次世代パワートレインとハイブリッドシステムを組合せ、2013年までに日本からハイブリッド車の販売開始を目指します。

将来に向けて

ビルディングブロック戦略は、将来も見据えた取り組みです。プラグインハイブリッドや電気自動車まで想定し、段階的な開発活動を進め、環境負荷の低減を実現します。

電気自動車は、昔から開発しており、現在も最新技術を取り入れた電気自動車を開発中です。また、様々な企業・団体との共同実証を行い、インフラ整備やバッテリーの二次利用などのより広範な領域において、今後の開発活動の基盤を強化していきます。

最後に

マツダは、さらなる「走る歓び」の深化、「理想燃焼」の追求、「軽量化」へ挑戦し続けます。「普及してこそ社会への貢献」という考えは、マツダのブランド価値から必然的に生まれるものです。知恵と工夫でブレークスルーしたベース技術を全てのお客様へ、できるだけ早期に提供することが最優先であり、最重要と捉えています。

■プロフィール

1986年3月 マツダ株式会社 入社
2001年7月 商品戦略本部 技術企画部 技術戦略グループ マネジャー
2007年5月 商品戦略本部 技術企画部 部長
現在に至る
技術戦略、環境安全戦略、技術コミュニケーション戦略立案、および技術開発資源管理、研究開発に関する
対外折衝/交流推進
官公庁への渉外活動 等

(その他) 自動車工業会 環境委員会 委員

● 卓話予告

日時	卓 話
5/19(木)	独立行政法人造幣局理事長 新原 芳明氏